

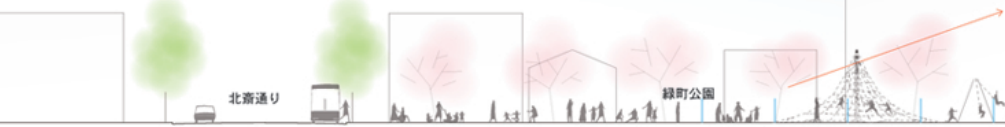
# 「日常のなかで出逢う北斎」

北斎をテーマとした美術館の設計理念



北斎は江戸時代のアンティ・ウォールだと考えないだろうか、浮世絵とは当時のポップ・アートではないか、ヴェンヤミンが「複製技術時代の芸術」という概念を発見する百年以上前にそれを実践していた江戸の社会があります。私たちは北斎の浮世絵が現代のポップアートのように日常生活のなかで現れるような美術館を提案します。

常設展示では高精細複製技術によるレプリカが主体となります。高度な印刷技術により、それはポスターのようであり、巨大なビルディングボード（広告看板）であり、ときにウォールペーパー（壁紙）であるような展示も可能だと考えます。



観光・産業を含む地域活性化拠点としての設計理念

## 「日常の連続」

まちに親しまれるランドマークづくり

### ■緑町公園と連続する

美術館のヴォリュームは緑町公園と連続する敷地に、そっと浮かび上がって置かれています。公園からつながるピロティは誰でも自由に入れる空間です。カフェが設けられ、ワークショップの場所になったり、触れる展示が置かれます。上階の外周を回避する常設展示室は公園から続く自由空間のように考えます。



回遊動線をもつ施設

## 「道行という経路でみせる常設展示」 【道行展示】

「北斎ライフ・スケール」に対応する道行として展示する常設展示の提案

### ■多様でダイナミックな常設展示

常設展示はホワイトボックスのなかで展示されるのではなく、美術館を回遊する経路のなかの様々な空間に対応して展示する【道行展示】を提案します。

この経路にある【道行展示】は、町屋の路地のような空間であったり、大きな吹き抜けを持った空間であったり、四畳半のような生活空間であったりします。

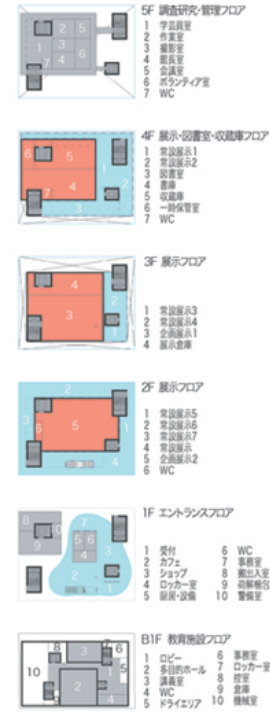
私たちが提案するこの【道行展示】は、建築空間と美術展示が一体になった物として提案するものです。展示室の健康天井あらゆる部分が展示面です。

実際に計画することになった場合はディレクターと綿密に打ち合わせを行い、ここにしかない（サイトスペシフィック）展示空間を実現したいと考えています。

### 資料にやさしい空間づくり

#### ■企画展示室

経路に設けられた常設展示室の【道行展示】から導入される企画展示室に富む平準な展示室とします。実物作品展示に対応する完全な空気環境調整を行います。



### 環境にやさしい空間づくり

#### ■熱環境を制御する空間構成

企画展示室・展示倉庫、収蔵庫、一時保管室など諸室は、外周を回避する常設展示室空間に包み込まれることで空調負荷が低減され、省エネルギー効果が得られます。企画展示室・展示倉庫、収蔵庫、一時保管室など諸室は、完全な空気調整を行います。常設展示室は外気よりやや温かい（涼しい）環境とします。

#### ■常設展示室空間の空気調整の考え方

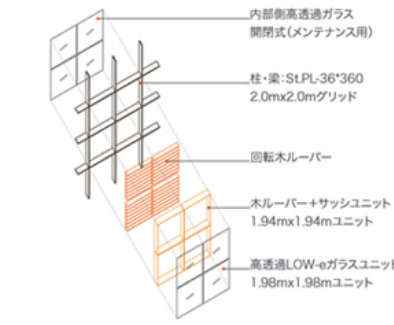
大空間となる常設展示室の空調には、効率良く居住域の快適性を考慮できるゆるやかな床輻射式冷暖房を行います。又、安定した地熱をいかし、クール・ヒートチューブによる新鮮空気取り入れによる熱交換（外気温を3°程度制御できる）、を検討します。さらに、夏期はヒートチューブによる排熱と新鮮空気の取り入れ、冬季はリターンダクト利用による空気の循環と居住域の温度改善ができ、パッシブエネルギーを有効活用した環境制御を検討します。

#### ■企画展示室・展示倉庫、収蔵庫、一時保管室などの空気調整の考え方

企画展示室・展示倉庫、収蔵庫、一時保管室など諸室は、動的な浮世絵を管理するために完全な空気調整が要求されます。外気から遮断され完全に空調される企画展示室は、地下水や地中熱利用ヒートポンプによる周辺環境負荷低減を計った空気調整を検討します。

#### ■環境対応型のホールバー組み込みファサードシステム

建物のファサードには、熱負荷を押しやるLow-eガラスと回転ホールバーを組み合わせた二重のガラス組み込みユニットを提案します。制御可能な回転ホールバーが、日射による熱負荷の低減や内部の照度調整、視線のコントロールといった環境調整を行います。自然素材のあたたかみを持ったホールバーは季節の外部環境の変化や日照、又、内部の展示や機能の要請により変化しながら環境を調整し、人・街並み・展示作品に優しく、絶えず移る変化していきながら表情をつくり出します。このユニットは同一部品で構成されており、現場では、工場で製作したユニットを取り付けるだけとなるので、安定した品質の工事を円滑化した管理で行うことができ、工期・工費を抑えます。



#### ■雨水の有効利用

地域水害対策へ貢献する貯留槽に蓄えられた雨水は、中水として建物内の洗浄水や屋外散水、緑町公園などの緑化用水として有効利用することが可能です。



経路の途中、街を見るビジュアル・ウィンドウのある場所に休憩のベンチが置かれます。